



スイッチの IP アドレスおよびデフォルトゲートウェイの設定

この章では、Catalyst 6500 シリーズ スイッチ上で IP アドレス、サブネット マスク、およびデフォルトゲートウェイを設定する手順について説明します。



(注)

この章で使用しているコマンドの完全な構文および使用方法の詳細については、『*Catalyst 6500 Series Switch Command Reference*』を参照してください。

この章で説明する内容は、次のとおりです。

- スイッチ管理インターフェースの機能概要 (p.3-2)
- 自動 IP コンフィギュレーションの機能概要 (p.3-3)
- IP アドレスおよびデフォルトゲートウェイの設定準備 (p.3-5)
- MSFC の初回の起動方法 (p.3-6)
- デフォルト IP アドレスおよびデフォルトゲートウェイの設定 (p.3-7)
- sc0 および sc1 帯域内インターフェースによってサポートされる機能 (p.3-7)
- 帯域内 (sc0 および sc1) インターフェース IP アドレスの割り当て (p.3-8)
- デフォルトゲートウェイの設定 (p.3-10)
- コンソールポートでの SLIP (sl0) インターフェースの設定 (p.3-12)
- BOOTP、DHCP、または RARP を使用して IP アドレスを取得する場合 (p.3-14)
- DHCP で割り当てられた IP アドレスの更新および解除 (p.3-15)

スイッチ管理インターフェイスの機能概要

Catalyst 6500 シリーズ スイッチには、帯域内 (sc0 および sc1) インターフェイスおよび帯域外管理 Serial Line Internet Protocol (SLIP; シリアルラインインターネットプロトコル) (sl0) インターフェイスという、3 種類の設定可能な IP 管理インターフェイスがあります。

帯域内 (sc0 および sc1) 管理インターフェイスは、スイッチングファブリックに接続しているため、スパニングツリー、Cisco Discovery Protocol (CDP)、VLAN (仮想 LAN) メンバーシップなど、標準のスイッチポート機能をすべてサポートします。帯域外管理インターフェイス (sl0) は、スイッチングファブリックに接続していないので、これらの機能をサポートしません。

sc0 および sc1 インターフェイスの IP アドレス、サブネットマスク、ブロードキャストアドレス、および VLAN メンバーシップを設定する場合には、Telnet または SNMP (簡易ネットワーク管理プロトコル) を使用してスイッチにアクセスします。SLIP (sl0) インターフェイスを設定する場合には、ワークステーションからコンソールポートを介してスイッチにポイントツーポイント接続を確立することができます。

スイッチ自体が生成したすべての IP トラフィック (スイッチからホストに対して開始した Telnet セッションなど) は、そのスイッチの IP ルーティングテーブルのエントリに応じて転送されます。インターサブネットワーク通信を行うには、sc0 または sc1 インターフェイス用に少なくとも 1 つのデフォルトゲートウェイを設定する必要があります。スイッチ IP ルーティングテーブルは、スイッチ自体が生成したトラフィックを転送するときだけに使用され、スイッチに接続されている装置から送信されたトラフィックの転送には使用されません。

自動 IP コンフィギュレーションの機能概要

ここでは、スイッチに IP コンフィギュレーションを自動的に取得させる方法について説明します。

- [自動 IP コンフィギュレーションの概要 \(p.3-3\)](#)
- [DHCP の概要 \(p.3-3\)](#)
- [BOOTP および RARP の概要 \(p.3-4\)](#)



(注) ここでの説明は sc0 インターフェイスだけに当てはまります。自動 IP コンフィギュレーション機能は、sc1 や sl0 インターフェイスには適用されません。

自動 IP コンフィギュレーションの概要

スイッチは次のいずれかのプロトコルを使用することにより、対応する IP コンフィギュレーションを自動的に取得できます。

- Bootstrap Protocol (BOOTP)
- Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP)
- Reverse Address Resolution Protocol (RARP)

BOOTP、DHCP、および RARP 要求が発行されるのは、スイッチの起動時に sc0 インターフェイス IP アドレスが 0.0.0.0 に設定されている場合に限られます。これは新しいスイッチ、または **clear config all** コマンドによってコンフィギュレーション ファイルが消去されているスイッチのデフォルトアドレスです。BOOTP、DHCP、および RARP 要求のブロードキャスト送信ができるのは、sc0 インターフェイスからだけです。



(注) CONFIG_FILE 環境変数が設定されている場合、スイッチはすべてのコンフィギュレーション ファイルを処理したあとで、BOOTP、DHCP、および RARP 要求をブロードキャストするかどうかを決定します。CONFIG_FILE 環境変数の詳細については、[第 23 章「スイッチの起動設定の変更」](#)を参照してください。

DHCP の概要

DHCP サーバから IP アドレスを取得するには、次の 3 通りの方法があります。

- 手動割り当て — ネットワーク管理者がスイッチの MAC (メディア アクセス制御) アドレスと DHCP サーバの IP アドレスを対応付けます。
- 自動割り当て — スイッチが初めて DHCP サーバにアクセスしたときに、IP アドレスを取得します。アドレスはそのスイッチに永続的に割り当てられます。
- 動的割り当て — スイッチは一定期間だけ「リースされた」IP アドレスを取得します。その期間が終了すると、IP アドレスが取り消され、スイッチがアドレスを放棄します。スイッチは別の IP アドレスを要求しなければなりません。

スイッチは sc0 インターフェイスの IP アドレスの他に、サブネット マスク、ブロードキャスト アドレス、およびデフォルト ゲートウェイ アドレスを取得できます。ユーザが設定した値がある場合は、DHCP によって学習した値は使用されません。

すべてのスイッチ ポートがオンラインになると、スイッチから DHCPDISCOVER メッセージが 1 ～ 10 秒間ブロードキャストされます。スイッチは DHCPDISCOVER メッセージで必ず、無期限のリース期間を要求します。

DHCP サーバまたは BOOTP サーバから要求に対する応答があると、スイッチは適切な処置を実行します。DHCP サーバから DHCPOFFER メッセージを受け取った場合、スイッチはメッセージ内のサポートされるすべてのオプションを処理します。表 3-1 に、サポートされる DHCP オプションを示します。DHCPOFFER メッセージに他のオプションが指定されていても、スイッチは無視します。

表 3-1 サポートされる DHCP オプション

コード	オプション
1	サブネット マスク
2	タイム オフセット
3	ルータ
6	ドメイン ネーム サーバ
12	ホスト名
15	ドメイン名
28	ブロードキャスト アドレス
33	スタティック ルート
42	NTP サーバ
51	IP アドレス リース期間
52	オプション オーバーロード
61	クライアント ID
66	Trivial File Transfer Protocol (TFTP; 簡易ファイル転送プロトコル) サーバ名

BOOTP サーバから BOOTP 応答を受け取った場合、スイッチは BOOTP 応答で指定されたアドレスに、帯域内 (sc0) インターフェイスの IP アドレスを設定します。

応答として DHCPOFFER メッセージまたは BOOTP 応答がなかった場合、スイッチは指数バックオフアルゴリズム (要求送信間隔を指数に従って延長) を使用して、要求を再びブロードキャストします。10 分経過しても応答がない場合 (かつ BOOTP 要求および RARP 要求も同様に失敗した場合)、sc0 インターフェイスの IP アドレスは 0.0.0.0 に設定されたままになります。

DHCP または BOOTP で取得した IP アドレスを使用して、スイッチをリセットした場合、または電源切断後に再投入した場合、DHCP または BOOTP から学習した情報が維持されます。起動時に、スイッチは IP アドレスのリースを更新しようとします。応答がなければ、スイッチはその時点での IP アドレスを維持します。

BOOTP および RARP の概要

BOOTP および RARP の場合、スイッチの MAC アドレスを BOOTP サーバまたは RARP サーバ上の IP アドレスにマッピングします。スイッチは起動時に、サーバから対応する IP アドレスを自動的に取得します。

すべてのスイッチ ポートがオンラインになると、スイッチは 10 個の BOOTP 要求および RARP 要求をブロードキャストします。応答を受信すると、スイッチは帯域内 (sc0) インターフェイスの IP アドレスを応答で指定されたアドレスに設定します。

応答がない場合 (かつ DHCP 要求も同様に失敗した場合)、sc0 インターフェイスの IP アドレスは 0.0.0.0 に設定されたままになります。

BOOTP または RARP で取得した IP アドレスを使用して、スイッチをリセットした場合、または電源切断後に再投入した場合、BOOTP または RARP から学習した情報が維持されます。

IP アドレスおよびデフォルト ゲートウェイの設定準備

スイッチの IP アドレスおよびデフォルト ゲートウェイを設定する前に、次の情報を調べておいてください。

- スイッチの IP アドレス (sc0 および sc1 インターフェイスのみ)
- サブネットマスク / サブネット ビット数 (sc0 および sc1 インターフェイスのみ)
- (任意) ブロードキャストアドレス (sc0 および sc1 インターフェイスのみ)
- VLAN メンバーシップ (sc0 および sc1 インターフェイスのみ)
- SLIP および SLIP 宛先アドレス (sl0 インターフェイスのみ)
- インターフェイス接続タイプ
 - 帯域内 (sc0 および sc1) インターフェイス — スイッチの帯域内管理インターフェイスに IP アドレス、サブネット マスク、および VLAN を割り当てる場合、このインターフェイスを設定します。
 - SLIP (sl0) インターフェイス — 端末とスイッチ間でポイントツーポイント SLIP 接続を設定する場合、このインターフェイスを設定します。

MSFC の初回の起動方法

Multilayer Switch Feature Card (MSFC; マルチレイヤ スイッチ フィーチャ カード) ブートフラッシュには、2つの MSFC イメージが用意されています。ブート ロード イメージとシステム イメージです。ブート ロード イメージは、ネットワーク インターフェイス コードおよびエンドホストプロトコル コードを含む、機能の限られたシステム イメージです。システム イメージは、マルチプロトコルルーティングを完全にサポートする、Cisco IOS の主要なソフトウェア イメージです。

出荷時の設定では、MSFC は最初にブート ロード イメージを起動し、次にブートフラッシュからシステム イメージを起動するように設定されています。ただし、スーパーバイザ エンジンでフラッシュ PC カードが使用できる場合には、新しいシステム イメージ (アップグレード) を、MSFC のブートフラッシュではなく、スーパーバイザ エンジンのフラッシュ PC カードですべて保存することを推奨します。ブート ロード イメージは、MSFC のブートフラッシュで保存する必要があります。



注意

ブート ロード イメージは消去しないでください。このイメージは、最初に起動するイメージとして常に使用されるので、MSFC ブートフラッシュ上で最初に検出されるイメージとして残しておく必要があります。



(注)

スーパーバイザ エンジンのフラッシュ PC カードに保存されたシステム イメージを使用するには、BOOTLDR 環境変数を設定する必要があります。イネーブル モードで、**boot bootldr bootflash: boot_loader_image** コマンドを入力します。

スーパーバイザのフラッシュ PC カード上にシステム イメージを保存するには、MSFC の設定に次のコマンドを追加して、フラッシュ PC カード上の該当するイメージから MSFC を起動するように、MSFC の設定を変更する必要があります。

```
boot sup-slot0:system_image
```

上記の例で、*system_image* は、スーパーバイザのフラッシュ PC カード上の目的とするイメージ名です。



(注)

スーパーバイザ エンジンのフラッシュ PC カードに保存されているシステム イメージを起動するには、少なくとも 1 つの VLAN インターフェイスが設定され、アクティブになっている必要があります。

この推奨手順に従った場合、ブートフラッシュ上に新しいシステム イメージを保存する必要はありません。必要に応じて、次のコマンドを入力することにより、スーパーバイザ エンジンのフラッシュ PC カード上のイメージからブートフラッシュ上のシステム イメージをアップデートできます。

```
delete bootflash:old_system_image  
squeeze bootflash:  
copy sup-slot0:new_system_image bootflash:
```

デフォルト IP アドレスおよびデフォルト ゲートウェイの設定

表 3-2 に、デフォルト IP アドレスおよびデフォルト ゲートウェイの設定を示します。

表 3-2 スイッチの IP アドレスおよびデフォルト ゲートウェイのデフォルト設定

機能	デフォルト値
帯域内 (sc0) インターフェイス	<ul style="list-style-type: none"> IP アドレス、サブネット マスク、およびブロードキャスト アドレスを 0.0.0.0 に設定 VLAN 1 に割り当て
帯域内 (sc1) インターフェイス	<ul style="list-style-type: none"> IP アドレス、サブネット マスク、およびブロードキャスト アドレスを 0.0.0.0 に設定 VLAN 2 に割り当て
デフォルト ゲートウェイ アドレス	メトリック 0 で 0.0.0.0 に設定
SLIP ¹ (sl0) インターフェイス	<ul style="list-style-type: none"> IP アドレスおよび SLIP 宛先アドレスを 0.0.0.0 に設定 コンソール ポートの SLIP は非アクティブ (detach に設定)

1. SLIP = Serial Line Internet Protocol

sc0 および sc1 帯域内インターフェイスによってサポートされる機能

表 3-3 に、sc0 および sc1 帯域内インターフェイスによってサポートされる機能を示します。

表 3-3 sc0 および sc1 帯域内インターフェイスによってサポートされる機能

sc0 インターフェイス	sc1 インターフェイス
イメージのダウンロード	イメージのダウンロード
ping	ping
Telnet	Telnet
SNMP	SNMP
デフォルト ゲートウェイのサポート	デフォルト ゲートウェイのサポート
BOOTP	
DHCP	
RARP	

帯域内 (sc0 および sc1) インターフェイス IP アドレスの割り当て

Telnet を使用してスイッチに接続する場合、または SNMP を使用してスイッチを管理する場合には、あらかじめ帯域内 (sc0 または sc1) 論理インターフェイスのいずれかに IP アドレスを割り当てる必要があります。



ヒント

sc1 または sc0 インターフェイスをデフォルトアドレスの 0.0.0.0 に戻す (クリアする) には、**set interface {sc0 | sc1} 0.0.0.0** コマンドを使用します。



ヒント

sc0 および sc1 の両方の帯域内インターフェイスが設定されている場合、スイッチは 2 つの異なる VLAN から同時に直接アクセスが可能です。

サブネットマスク (*netmask*) は、サブネット ビット数を使用して、またはドット付き 10 進表記のサブネット マスクを使用して指定できます。

帯域内 (sc0 または sc1) 管理インターフェイスの IP アドレスおよび VLAN メンバーシップを設定するには、イネーブルモードで次の作業を行います (この例では sc0 インターフェイスを設定します)。

	作業	コマンド
ステップ 1	帯域内 (sc0 または sc1) インターフェイスに、IP アドレス、サブネット マスク (またはサブネット ビット数)、および (任意で) ブロードキャスト アドレスを割り当てます。	set interface {sc0 sc1} [ip_addr [netmask [broadcast]]] または set interface {sc0 sc1} [ip_addr/netmask [broadcast]]
ステップ 2	適切な VLAN に帯域内インターフェイスを割り当てます (IP アドレスが所属するネットワークと VLAN が対応付けられていることを確認します)。	set interface {sc0 sc1} [vlan]
ステップ 3	必要に応じて、インターフェイスをアクティブにします。	set interface {sc0 sc1} up
ステップ 4	インターフェイスの設定を確認します。	show interface

次に、帯域内 sc0 インターフェイスに IP アドレスを割り当て、サブネット ビット数および VLAN の割り当てを指定する例を示します。

```
Console> (enable) set interface sc0 172.20.52.124/29
Interface sc0 IP address and netmask set.
Console> (enable) set interface sc0 5
Interface sc0 vlan set.
Console> (enable)
```


次に、VLAN の割り当てを指定し、IP アドレスを割り当て、ドット付き 10 進表記でサブネットマスクを指定し、設定を確認する例を示します。この例では sc0 インターフェイスを設定します (sc1 および sl0 インターフェイスは設定されていません)。

```
Console> (enable) set interface sc0 5 172.20.52.124/255.255.255.248
Interface sc0 vlan set, IP address and netmask set.
Console> (enable) show interface
sl0: flags=51<UP,POINTOPOINT,RUNNING>
      slip 0.0.0.0 dest 0.0.0.0
sc0:  flags=63<UP,BROADCAST,RUNNING>
      vlan 5 inet 172.20.52.124 netmask 255.255.255.248 broadcast 172.20.52.17
sc1:  flags=62<DOWN,BROADCAST,RUNNING>
      vlan 0 inet 0.0.0.0 netmask 0.0.0.0 broadcast 0.0.0.0
Console> (enable)
```

デフォルトゲートウェイの設定

スーパーバイザエンジンは、他の IP サブネット宛の IP パケットをデフォルトゲートウェイ（通常はスイッチ IP アドレスと同じネットワークまたはサブネットのルータ インターフェイス）に送信します。スイッチは、接続装置からのトラフィックの転送には IP ルーティングテーブルを使用しません。スイッチ自体が生成した IP トラフィック（Telnet、TFTP、および ping など）の転送だけに使用します。



(注) デフォルトゲートウェイのほかに、スタティック IP ルートを設定する場合があります。スタティックルートの設定については、「[スイッチ上でのスタティックルートの設定](#)」(p.20-9) を参照してください。

デフォルト IP ゲートウェイは、3 つまで定義できます。ゲートウェイをプライマリゲートウェイにするには、**primary** キーワードを使用します。プライマリのデフォルトゲートウェイを指定しなかった場合、最初に設定したゲートウェイがプライマリゲートウェイになります。また、複数のゲートウェイをプライマリとして指定した場合には、最後に設定したゲートウェイがプライマリのデフォルトゲートウェイになります。

スイッチはネットワークからのすべての IP トラフィックをプライマリデフォルトゲートウェイに送信します。プライマリゲートウェイに接続できなくなった場合、スイッチは設定された順にバックアップゲートウェイを使用します。スイッチは定期的に ping メッセージを送信して、各デフォルトゲートウェイがアクティブかどうかを判別します。プライマリゲートウェイに再び接続できるようになると、プライマリゲートウェイへのトラフィック送信が再開されます。



(注) システムは、ルートとゲートウェイを該当する sc0 または sc1 帯域内インターフェイスに自動的に対応付けます。

1 つまたは複数のデフォルトゲートウェイを設定するには、イネーブルモードで次の作業を行います。

	作業	コマンド
ステップ 1	スイッチのデフォルト IP ゲートウェイアドレスを設定します。	set ip route default gateway [metric] [primary]
ステップ 2	(任意) スイッチ用に追加のデフォルトゲートウェイを設定します。	set ip route default gateway [metric] [primary]
ステップ 3	デフォルトゲートウェイが IP ルーティングテーブルに正しく組み込まれていることを確認します。	show ip route

デフォルトゲートウェイエントリを削除するには、イネーブルモードで次のいずれかの作業を行います。

作業	コマンド
特定のデフォルトゲートウェイエントリを消去します。	clear ip route default gateway
すべてのデフォルトゲートウェイおよびスタティックルートを消去します。	clear ip route all

次に、スイッチ上で3つのデフォルトゲートウェイを設定し、デフォルトゲートウェイの設定を確認する方法を示します。

```

Console> (enable) set ip route default 10.1.1.10
Route added.
Console> (enable) set ip route default 10.1.1.20
Route added.
Console> (enable) set ip route default 10.1.1.1 primary
Route added.
Console> (enable) show ip route
Fragmentation  Redirect  Unreachable
-----
enabled          enabled   enabled

```

```

The primary gateway: 10.1.1.1
Destination      Gateway          RouteMask      Flags   Use    Interface
-----
default          10.1.1.1        0x0            UG     6      sc0
default          10.1.1.20       0x0            G      0      sc0
default          10.1.1.10       0x0            G      0      sc0
10.0.0.0         10.1.1.100     0xff000000    U      75     sc0
default          default         0xff000000    UH     0      sl0
Console> (enable)

```

コンソールポートでの SLIP (s10) インターフェイスの設定

スイッチと IP ホスト間のポイントツーポイント SLIP 接続には、SLIP (s10) インターフェイスを使用します。



注意

SLIP 接続には、コンソールポートを使用する必要があります。SLIP 接続がイネーブルになり、コンソールポート上で SLIP 接続が行われると、コンソールポートから EIA/TIA-232 端末に接続することはできません。コンソールポートからスイッチの CLI に接続している場合に、**slip attach** コマンドを入力すると、コンソールポート接続が切断されます。その場合、Telnet を使用してスイッチにアクセスし、イネーブルモードを開始して、**slip detach** コマンドを入力すると、コンソールポート接続を復元できます。

コンソールポート上で SLIP をイネーブルにして接続するには、次の作業を行います。

	作業	コマンド
ステップ 1	リモートホストからスイッチに Telnet でアクセスします。	telnet {host_name ip_addr}
ステップ 2	スイッチ上でイネーブルモードを開始します。	enable
ステップ 3	コンソールポートの SLIP アドレス、および接続ホストの宛先アドレスを設定します。	set interface s10 slip_addr dest_addr
ステップ 4	SLIP インターフェイスの設定を確認します。	show interface
ステップ 5	コンソールポートに対して SLIP をイネーブルにします。	slip attach

コンソールポート上で SLIP をディセーブルにするには、次の作業を行います。

	作業	コマンド
ステップ 1	リモートホストからスイッチに Telnet でアクセスします。	telnet {host_name ip_addr}
ステップ 2	スイッチ上でイネーブルモードを開始します。	enable
ステップ 3	コンソールポートに対して SLIP をディセーブルにします。	slip detach

コンソールポート上で SLIP を設定し、その設定を確認する例を示します。

```
sparc20% telnet 172.20.52.38
Trying 172.20.52.38 ...
Connected to 172.20.52.38.
Escape character is '^]'.

Cisco Systems, Inc. Console

Enter password:
Console> enable

Enter password:
Console> (enable) set interface s10 10.1.1.1 10.1.1.2
Interface s10 slip and destination address set.
Console> (enable) show interface
s10: flags=51<UP,POINTOPOINT,RUNNING>
      slip 10.1.1.1 dest 10.1.1.2
sc0: flags=63<UP,BROADCAST,RUNNING>
      vlan 522 inet 172.20.52.38 netmask 255.255.255.240 broadcast 172.20.52.7
Console> (enable) slip attach
Console Port now running SLIP.

Console> (enable) slip detach
SLIP detached on Console port.
Console> (enable)
```

BOOTP、DHCP、または RARP を使用して IP アドレスを取得する場合



(注) スイッチで BOOTP、DHCP、または RARP を使用して IP コンフィギュレーションを取得する手順の詳細については、「[自動 IP コンフィギュレーションの機能概要](#)」(p.3-3) を参照してください。

BOOTP、DHCP、または RARP を使用してスイッチの IP アドレスを取得するには、次の作業を行います。

	作業	コマンド
ステップ 1	ネットワーク上に DHCP サーバ、BOOTP サーバ、または RARP サーバがあることを確認します。	-
ステップ 2	モジュール 1 (スーパーバイザ エンジン) について MAC アドレス範囲内で最後のアドレスを取得します。このアドレスは、MAC-Address (es) の見出しの下に表示されます (DHCP を使用する場合、手動割り当て方式を使用するときに限り、この作業が必要です)。	show module
ステップ 3	DHCP、BOOTP、または RARP のサーバ コンフィギュレーションの各スイッチにエントリを追加し、スイッチの MAC アドレスをスイッチの IP コンフィギュレーション情報に対応付けます (DHCP を使用する場合、手動または自動割り当て方式を使用するときに限り、この作業が必要です)。	-
ステップ 4	sc0 インターフェイスの IP アドレスを 0.0.0.0 に設定します。	set interface sc0 0.0.0.0
ステップ 5	スイッチをリセットします。DHCP 要求および RARP 要求は、スイッチの起動時に限りブロードキャストされます。	reset system
ステップ 6	スイッチの再起動後、sc0 インターフェイスの IP アドレス、サブネットマスク、およびブロードキャスト アドレスが正しく設定されているかどうかを確認します。	show interface
ステップ 7	DHCP の場合、他のオプション (デフォルト ゲートウェイ アドレスなど) が正しく設定されているかどうかを確認します。	show ip route

次に、スイッチが DHCP 要求をブロードキャストし、DHCP オファーを受信し、DHCP オファーの内容に基づいて IP アドレスおよびその他の IP パラメータを設定する例を示します。

```

Console> (enable)
Sending RARP request with address 00:90:0c:5a:8f:ff
Sending DHCP packet with address: 00:90:0c:5a:8f:ff
dhcponffer
Sending DHCP packet with address: 00:90:0c:5a:8f:ff
Timezone set to '', offset from UTC is 7 hours 58 minutes
Timezone set to '', offset from UTC is 7 hours 58 minutes
172.16.30.32 added to DNS server table as primary server.
172.16.31.32 added to DNS server table as backup server.
172.16.32.32 added to DNS server table as backup server.
NTP server 172.16.25.253 added
NTP server 172.16.25.252 added
%MGMT-5-DHCP_S:Assigned IP address 172.20.25.244 from DHCP Server 172.20.25.254
Console> (enable) show interface
s10: flags=51<UP,POINTOPOINT,RUNNING>
      slip 0.0.0.0 dest 0.0.0.0
sc0: flags=63<UP,BROADCAST,RUNNING>
      vlan 1 inet 172.20.25.244 netmask 255.255.255.0 broadcast 172.20.25.255
dhcp server: 172.20.25.254
Console>

```

DHCP で割り当てられた IP アドレスの更新および解除

DHCP を使用して IP アドレスを割り当てる場合、次のどちらかの DHCP 関連作業を行うことができます。

- DHCP で割り当てられた IP アドレスのリースを更新します。
- DHCP で割り当てられた IP アドレスのリースを解除します。

DHCP で割り当てられた、帯域内 (sc0) 管理インターフェイスの IP アドレスを更新または解除するには、イネーブルモードで次のいずれかの作業を行います。

作業	コマンド
DHCP で割り当てられた IP アドレスのリースを更新します。	set interface sc0 dhcp renew
DHCP で割り当てられた IP アドレスのリースを解除します。	set interface sc0 dhcp release

次に、DHCP で割り当てられた IP アドレスのリースを更新する例を示します。

```
Console> (enable) set interface sc0 dhcp renew
Renewing IP address...
Console> (enable) Sending DHCP packet with address: 00:90:0c:5a:8f:ff
(テキスト出力は省略)
```

次に、DHCP で割り当てられた IP アドレスのリースを解除する例を示します。

```
Console> (enable) set interface sc0 dhcp release
Releasing IP address...
Console> (enable) Sending DHCP packet with address: 00:90:0c:5a:8f:ff
Done

Console> (enable)
```

■ DHCP で割り当てられた IP アドレスの更新および解除